

香川県 坂出 JC より瀬戸中央自動車道を望む

ジャンル 道路

4

四国の高速道路

「8」の字に、高速道路で人とモノをつなぐ

高速道路ができて、四国4県がぐっと近くなったね。



1. 高速道路とは

一般の道路よりも早いスピードで走れる「高速道路（高規格幹線道路）」には、「高速自動車国道」と「自動車専用道路」の2つがあります。高速で走れる上に、一般道路と隔てられ交差点もないので、自動車で長距離を効率的にヒトやモノを運べます。高速自動車国道は、都道府県を超えて全国を結ぶ道路網の中核を構成しています。自動車専用道路は、高速自動車国道と一体となり地域の交通を円滑にするための道路です。瀬戸大橋を初めとする四国と本州を結ぶ3つの橋を走る道路は、この自動車専用道路に区分されています。

ここでは、四国と本州を結ぶ3つの橋を走る道路と四国島内の高規格幹線道路について、その歴史と、それがもたらした効果を見て行きます。

2. 四国の高速道路の歴史

日本の高速道路は、昭和32（1957）年頃から法律で定められ、建設体制が整えられて来ました。昭和41（1966）年には「国土開発幹線自動車道建設法」という法律で、四国の2つの地域の高速道路が建設予定区間に定められました。

■徳島市～大洲市間の四国縦貫自動車道 222km

■高松市～須崎市間の四国横断自動車道 150km

また、昭和62（1987）年9月の法律の一部改正では

■阿南市～高松市間 110km

■須崎市～大洲市間 190km

が追加されて、全長672kmが四国の高速道路の予定路線になっています。

四国で初めて高速道路が開通したのは、昭和 60(1985)年 3 月 27 日、愛媛県の三島川之江 JCT・土居間 11.0km でした。続いて昭和 62 年(1987)10 月 8 日に高知県内で初めて大豊・南国間 21.0km が、同じ年の 12 月 16 日には香川県内初めての善通寺・川之江 JCT 間 35.2km が開通しています。さらに、翌年、昭和 63(1988)年 4 月には、瀬戸大橋（本州四国連絡道路の児島坂出ルート）37.3km が完成し、平成 4(1992)年 4 月には、瀬戸大橋と四国内の高速道路が結ばれました。

また平成 12(2000)年には、四国 4 県の県庁所在地を「X」の文字のようにつなぐ「エクスハイウェイ」が全線開通しています。その後も高速道路の整備は精力的に行われ平成 24(2012)年には松山自動車道、高知自動車道が全線開通となり、平成 27(2015)年には徳島市と高松市が結ばれるなど整備が進みました。

昭和 62 年の高速道路の予定路線に加えて、四国全体に高速道路を行き渡らせるため高知市から阿南市までの路線を加えて整備しつつあります。このように四国内の高速道路は 4 県を数字の「8」の字のように結んでいるので、「8 の字ネットワーク」と名付けられており、国と四国の 4 県行政、NEXCO 西日本などが協力しながら事業が進行中です。人口減少や高齢化に負けない暮らしの利便性や経済的な発展を、四国全域にまんべんなく行き渡らせるための道路づくりを行っています。



四国初の高速道路が開通。
昭和60(1985)年3月松山自動車道（三島川之江⇄土居）開通式。



「エクスハイウェイ」が完成。
平成12(2000)年3月徳島自動車道（井川池田⇄川之江東）開通式。



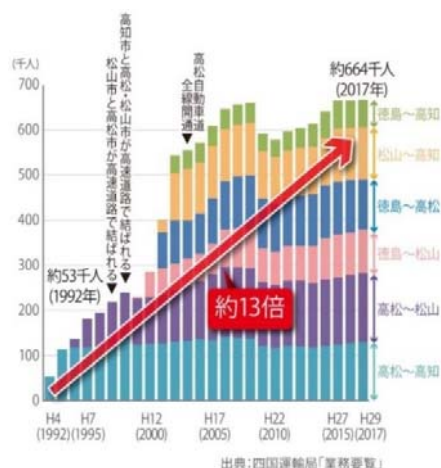
■ 1985年に開通 ■ 1986～2000年に開通 ■ 2001～2018年に開通
■ は、現在道路事業が進行中 ○○は、現在調査進行中

「8の字ネットワーク」の整備状況（2018年現在）

3. 高速道路整備により大きな変化が 小さくなる四国、拡大する圏域

高速道路が整備された事により、四国 4 県の県庁所在地間の移動時間は約 3~5 割短縮されました。中でも、山間部を走り大雨等により通行止めになる事が多かった国道 32 号の代替え道路となる、高知道の時間短縮効果には目を見張るものがあります。また、高知・松山間の移動も、高知道・松山道を利用する事により大幅に時間短縮する事ができ、高松市からは四国西南部の宇和島市、四万十市への日帰りも可能になりました。

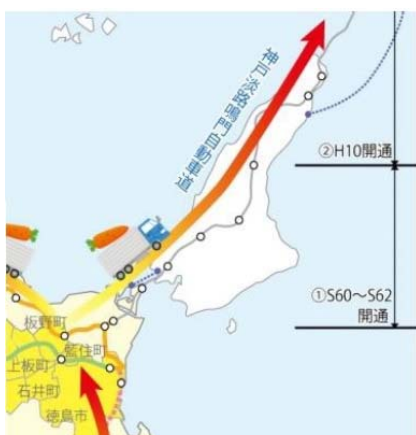
四国内を自動車で移動する人の割合が増え、高速バスの利用者数は、1992 年から 2017 年の 25 年間で約 13 倍に増えています。



高速バスの利用者数。

本州と四国を結ぶ 3 つの橋を含む高速道路の整備により、物流も大きく変化しました。

四国特産の鮮魚や野菜は、天候等に左右されることなく、傷みも少ないまま、首都圏・阪神圏にダイレクトに出荷できます。例えば宇和島市・愛南町など、愛媛県の南部で水揚げされたマダイが全国シェアで約 6 割に拡大し、徳島県産のニンジン出荷量 (4 月) は、全国シェアで 8 割に拡大。「四国の高速道路→本州と四国を結ぶ橋の高速道路→本州側の高速道路」と、連結した効果の高さが表れています。



徳島県の春夏ニンジンの全国シェアが拡大。

4. 観光客を呼び込み、災害時にも役立つ

高速道路そのものが観光施設となり、海外からも人を集めているのがしまなみ海道です。しまなみ海道のサイクリングロードは、宿泊施設やサイクリング支援施設の整備により、平成 26 (2014) 年度には約 12 万人の利用がありました。世界でも珍しい「海を渡るサイクリング」は、まだまだ海外からの観光客を呼び込む可能性があります。

高速道路の完全な連結はまだですが（令和 2 年現在）、高知県黒潮町の土佐西南大規模公園(大方地区)は、温暖な気候とアクセスのしやすさで、県内外、四国内外から、各種スポーツの合宿利用者が増加しています。また四国内からも関西圏からもアクセスがよいため、徳島県、高知県で吉野川のラフティングに人気が集まっています。関空からのアクセスもよいので海外からの観光客も増加中です。

さらに、高速道路は地震・津波・豪雨等に強く、災害時の救助活動での利用、避難場所としてのサービスエリア、パーキングエリアの活用も可能です。阪神淡路大震災時には、本州の幹線道路の代わりの道路としても活用されました。四国と本州を結ぶ高速道路ネットワークも、災害時に大きな役割を果たします。



善通寺 IC より高松方面に伸びる横断自動車道路（高松自動車道）。